

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272500628		
法人名	株式会社 マザアス		
事業所名	マザアスホーム だんらん流山		
所在地	〒270-0143 千葉県流山市向小金2-561-1		
自己評価作成日	平成24年2月3日	評価結果市町村受理日	平成24年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成24年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・散歩や外出、朝、テレビを観ながらコーヒーを飲みたい等、お一人お一人のご希望に添うよう支援しています。また、将棋、書道、歌など、個々の希望にあわせながら、ボランティアの方と協力しながら関わっています。
 ・食事が摂りにくくなった際の対応や、終末期のありかたについてのご家族の意見、ご本人の気持ちを汲み取り、その時に備えるようにしています。『息を引き取る最後まで、だんらん流れ山で過ごす』という看取りを含め、可能な限り長くお過ごしいただけるような支援を実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の優れた取り組みの一点目は、家族になり変わり提供するサービスである。利用者の病院対応が必要な場合には、職員が対応する事になっている。このために同一法人の4施設のネットワークを使って、職員が昼夜いかなる場合にも対応している。二点目は防災対策である。今年度は夜間の避難訓練を実施しているが、大震災の教訓を生かして、グループの事業所の職員が5分以内に集まれる体制を取っている。施設が取り組んでいる内容は、利用者アンケートで「満足している」回答として表れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との交流を図り、気兼ねなく暮らせる第二の我が家」となるような支援を「提供するサービスの基本的な考え方12か条」の考えも取り入れています。職員会議を1回/月開催し全職員に運営理念の共通理解を深めています。	理念は、入社時の研修と定例のミーティングで、サービス提供の基本12か条により職員に指導をしている。施設では職員が話し合いにより決めた「ゆったり、のんびり、明るく」を、目標としてサービスに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に近隣のゴミ拾い・パトロールもかねて行うこともあります。庭・道路掃除の際に挨拶を交わしています。地域で開かれるバザー・集会・お祭りなど行事に参加しています。	町会に加入して、バザー、お祭りではお神輿が施設に立ち寄る等、楽しく交流をしている。文化際には利用者の絵等の作品を出品している。また小学校の催し物や、地域の芋煮会等に参加しており交流が盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時、高齢者に会ったときには声をかけ話をするようにしています。また、信号を安全に渡れるまで見守りすることもありません。スーパーでは支払いに焦る方に「ゆっくりでいいですよ」と声をかけたりお手伝いをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者の生活の様子、変化に応じた対応の報告、感染症対策や評価への取り組み等の報告をおこない、それに対する意見を取り上げ、サービスの質の向上に努めています。	運営推進会議は年6回開催されている。参加者は、近隣住民、家族、社会福祉協議会、行政である。施設からは活動内容の報告を行い、参加者と震災対策プロジェクト活動や、感染症対策等について話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年3～4回のグループホーム担当市役所職員、他市内グループホームホーム長、管理者と会合を持ち、情報交換や運営上の意思統一など行っています。	グループホーム連絡会が年4回開かれて参加している。会議では行政と、利用者の病院利用の状況報告や、認知症の重度化対応、食中毒等について話し合っている。また、行政の窓口には毎月状況の報告をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等で身体拘束に関する基準11か条を確認し、身体拘束をしないケアをしています。車の交通量が多く、入居者が外出した際危険性が高いので、ご家族に説明の上玄関を施錠しています。また、庭を活用し閉塞感を減らしています。	法人の人権擁護委員会による、身体拘束に関する研修を受けている。施設では防止の取り組みとして、急に立ち上がる利用者に対して転倒を防ぐために、シフトを変えて見守りの職員を増やす等の対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についてミーティングにて学ぶ機会を持ち、他施設での事例について検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されているご入居者についてミーティングなどで学ぶ機会を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、サービスについて詳しく説明し、不安点・疑問点など無くなるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の心のこえに耳を傾ける努力をしています。介護相談員が感じ取っていることや相談員の意見も聞き入れています。	利用者には「だんらん通信」を毎月発行している。行事の際に家族会を年6回開催している。会議では、利用者の歩行能力が落ちているので短距離を歩いて能力を維持する等の要望が出されて、話し合っている。	家族との交流は、行事の場を活かして家族会を行い話し合っている。しかしながら話し合われた内容が記録として残されていないので、今後は議事録を残すよう望む。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて運営上の改善事項がないか、職員の意見を聞き反映させています。また、防災・研修委員会に職員が関わり活動しています。	職員は毎月のミーティングと毎日の申し送りに参加して、利用者の状況等を話し合っている。職員から、風呂場に室内乾燥機設置の提案があり、設置を決めている。研修は年間9項目の内容を実施している。	職員の研修は事業計画により実施しており、報告書も提出している。個人別の研修履歴はシステムはあるが記録がないため、今後は個人の履歴として管理するよう期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自社内グループホーム、また、本社ホームのスタッフと助け合い人員確保に努めています。職員の手薄な時間帯をカバーするなど入居者の状況に合わせて随時調整し、対応しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自社グループホーム内の勉強会やマザアス南柏で開催される月1回の研習に参加しています。また、地域の勉強会や有料研修への参加、市の講演会へ参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム間の施設見学と情報交換を行い、日帰り旅行等のノウハウなど伝え合っています。野田市、流山市のグループホーム職員が集まり事例検討を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面会時に不安に思っていることを聞き取り、より安心できる援助サービスをイメージしながらどんな生活を送りたいか聞いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時にご家族の悩みを聞き、解決に向けて共に考えるよう努めています。入居後はご家族と話し合う時間を設け、より安心していただけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お一人お一人がグループホーム内で、より良い生活を送るために何が必要か、どんなサービスが提供できるかを考え、他のサービス利用も含めて見当しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の表情・しぐさから気持ちを読み取り、耳を傾ける姿勢を大切にしながら関わっています。お一人お一人が大切にされていることわりから世界感、価値観を学び取ろうとしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が家族と過ごせる面会は、貴重な時間であることを伝え、認知症であっても継続的に家族とふれあい、共にいることが本人の支えになっていることを伝えていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みのお店に食事に行ったり、ご高齢でも墓参り等にいけるよう援助しています。	利用者の友人・知人が毎月訪れている。買い物で行きつけの店に散歩をしながら出かけたり、馴染みの美容院に行く等している。囲碁、お話し、フラワーセラピーなどのボランティアの人達と楽しく過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士でのお話、買い物、活動の実施を行い、また、会話の行き違いが生じた場合は職員が間に入って利用者同士の関係がよくなるよう努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご入居者とご家族に写真をまとめたアルバムや電子データをプレゼントしたり、心落ち着くCDを渡し、喜んでいただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の様子から、ご本人が何を望んでいて何をしてほしいのかということ把握している。認知症が重度化したり、身体レベルが低下しても、ご家族の意見を交えてその時の一番望ましい生活の仕方を考えています。	利用者個々の表情の変化、例えば柔和になる、特に嬉しい時の目の輝きを敏感に捉えて、よりその人の望むことや思いに沿うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、また面会時などに生立ちの詳しい話を聴いています。馴染のある家具などを出来る限り揃えて生活環境を整えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の記録など個別記録をつけて、心身の状況を総合的に把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者本位の目標をたて、ご本人やご家族、また、職員の意見を取り入れながら多方面から検討して具体的な介護計画書を作成しています。	利用者ごとに担当者を決め、細かいところまで気をつけている。足の痛みから車椅子でトイレへ行っていた人が、整形医との連携で手引き歩行で行けるようになった。多職種の眼や知恵で介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを作り、ご家族の気づきも含めて詳しく記録している。その情報を共有して新たな質の高いケア計画に生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時のニーズに対応できるよう努めています。通院や美容の手配など多方面に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩・囲碁・書道・歌を歌うなど、本人の希望に合わせて、ボランティアと協力しながら支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療対応について、医師を含めたカンファレンスを開くなどして家族の意見を事前に聞き、急変時も適切な対応が出来るようにしています。	定期受診は家族の代行をしている。提携医には受診前に状況を知らせ、受診日時と事前に採尿等の指示を受けている。救急時は、法人の看護師と家族に連絡し、病院で引き継いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	向小金クリニックの看護師や、マザアス南柏の看護師と協力し合い、健康管理上の相談を行い、必要な処置をお願いしています。看護師に現場に来てもらい、適切な対応を学ぶ機会を設けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院をした際は定期的に訪問し、可能な限り身の回りのお世話をし、より快適な入院生活になるよう、入居者の声を現場の看護師に伝えています。また、病院の看護師、相談員と情報交換をして、早期に退院できるよう調整しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食事が摂れなくなってきた際の対応や、終末期の在り方についての家族の意見、本人の気持ちを汲み取り、その時に備えるようにしています。看取りを含め、可能な限り、長くだんらんで過ごしていただけるような支援をしています。	本人、家族の希望に可能な限り応えるべく、法人の看護師、提携医との連携が密に構築されている。また、職員もその為の努力をして長く過ごせるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ショートミーティングや、職員会議等で勉強会を開き、事故を防ぐ対応を学んでいるマザアス南柏にて勉強会に参加し、急変時の対応の勉強を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、地域の方々へも協力を得られるよう呼びかけています。	火災には、自動通報装置を設置し、夜間想定訓練も行っている。地震時は、耐震性1.5倍の建物であり、指示があるまで中にいる。昨年の震災後、防災グッズや備蓄品を調べた。近所の協力も得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対して、長年に渡って日本や家族を支えてきた人生の先輩として尊敬の念を持って接しています。公私混合なく個人情報 を厳重に扱っています。	かつて活躍していた頃の仕事の話等で誇りを呼び戻し、日々の生活に張りを作り出している。職員同士の連絡にもプライバシーを損ねないように、また友達感覚で接遇しないよう細心の注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も受容的な態度で接し、気持ちを表現しやすいよう手助けをしながらお付き合いをしています。今日の予定、献立など自己決定の場を設け説明は短く分かりやすい言葉でしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気のよい日は散歩に行きたい、朝食はゆっくりが良い、朝はリビングの床を掃除したい、昼寝を必ずしたい等、その方の希望に添って援助しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族の希望を聞きながら、本人らしいおしゃれが出来るよう支援をし、馴染みのある理美容店に行っています。洋服の買い物に出掛ける機会を設けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくりの際、何を召し上がりたいが聞いたり、可能な限り食材選びを行ったり、一緒に調理から片付けまで行っています。	歩いたり車椅子に乗ったりして、職員とスーパーへ買い物に出かけ、会話も弾み、好みのおやつを買うこともある。静かな音楽を流しながら食事をし、一緒に食器を拭いたりしている。	食事は彩りも綺麗で、栄養満点である。が、年齢からみると量が多過ぎるのか、残している。また、隠し包丁や、より軟らかくする等個々の咀嚼に合わせた配慮を望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量チェックを行い、摂取量が少ない方へは補食を提供しています。嚥下状態・体調に合わせて食事形態を変えています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをして歯磨き、うがいをしています。歯科受診中の方には、医師の指示を含めた声掛けをしています。出来ない方には一部介助、もしくは全介助で歯磨きを行っています。夜間、義歯は洗浄剤につけ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人一人の排泄パターンを職員が把握し、トイレの自立に向けて支援を行っています。	個々の排泄パターンを把握し、動作で排便を察知したり、こまめに声をかけてトイレ誘導している。夜はP-トイレだが日中はトイレで可能等自立への支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩の実施、おやつに寒天製のものやヨーグルトを出し、飲水量の確保にも努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は午後だが、最初や最後に入りたい等、順番の希望はきちんと伺い対応しています。	立位が困難な時には、ストレッチャーで3人で対応したり、入浴拒否の人には、相性の良い職員が勧めたり、明るい内は入りたがらない等あるが、個々の希望に沿って週に3日は入浴して清潔を保つよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	長年の生活習慣を尊重し、その方の状態に合わせた休息がとれるよう支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的、副作用について理解しています。服薬準備と服薬介助者は別の職員が対応し、チェック表に服薬前後、確認サインをしています。また、異変時は意思に相談をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、後片付け、食器洗い、掃除、洗濯物星、たたみ、植木剪定等の園芸作業、水撒き、そろばん計算、新聞取り、散歩、パズル、おしぼり・雑巾縫い、ペン字練習、買い物などを行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴れているときは近所を散歩したり、庭に出たり、買い物などを楽しみながら行けるようにしています。	ときには中庭で食事をする。天気がよくない日でも、折りたたみ椅子に腰掛けて、外を眺めることで「今日は車が多い」等外の様子に関心を向けるようにしている。その結果表情が明るくなり気分転換になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来ている方はお金を所持していて、一緒に買い物に出掛けた際、支払いまでして頂いています。継続して支払いができるよう支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話ができる方は、携帯電話を居室に置き、定期的にご家族とお話ができるよう支援をしています。また、電話を居室に置けない方でも電話番号の書いてある手帳やメモを持っていただき事務所の電話を使い、いつでも家族に話ができる事を促しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適度な光が入る様にしたり、季節を感じられる装飾をしています。テレビや音楽の内容や音量に配慮して、快適に過ごせるよう努めています。	リビングには利用者の作った、大きなちぎり絵が飾られている。他にも、習字、フラワーセラピーの作品と利用者の行事の写真が飾ってある。吹き抜けの天井が広い空間を作っていて、明るいリビングで利用者がゆっくりとくつろげる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭をぐるっと回ったり、テラスの椅子で一人で過ごす入居者の姿もみられます。リビングやソファにて気の合う入居者同士で話することもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた棚やテーブル、椅子、ご家族の写真、小物入れ、絵、碁盤。碁石、人形、植木鉢等を置き、本人が落ち着ける空間を作っています。	入居時は利用者、家族と話し合い、布団、枕、テレビ等持ち込みを自由である。ポータブルトイレの持ち込みにも応じている。室内は、利用者が行事を楽しんでいる写真が飾ってあり利用者の好みの環境にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要などころに手すりを付けて、できるだけ自立した生活が送れるように配慮しています。そろばん、裁縫道具、剪定鋏などの園芸用品、掃除機、ほうき、モップ、新聞、しゃもじ、手芸道具などを活用し、自立を支援しています。		